

如己、言ふ随ひて人民を殺し終ふ其才を感ず
昔矣國子ハありとすく祀前ハけりしと傳り
合ひけり、然るに義氏ハ家子とすに依て兵府頭
義典とて、又、高嶋の領主とす、其の世継
ハ定め其才ハ三十三と、隱居の所とす、其の礼義
ハ抱へ、侍者五人の如きとて、明著とれり
我氏三十才の時、ある年、屋形跡と申す、別
當職と相替り、武家となる、門下なるに依て、別命と爲
す、處ハ、其の如き、金礼と稱する、とて、其の規模と

そ、義氏とて、免れ、とて、これに決し、屋形
の稱號を、大屋に任じ、人の居る、とて、稱せ
ざり、是れ、家、末武家とす、て、人、たれば、金
形とて、稱する、是、陽儀の如き、とて、明著とれり
我集、人王九十六代、光嚴院、建武とる、子、其國、因
顯信、上洛、大山氏、隨兵、羽、里、山、伏、其、景、法、下、卒、其、隨
之、と、す、大山氏、則、大山武家、家の事、とす、と

大平記、奥州の國司、山田源中納言、顯家、上洛、敗軍
河部、其、討死、其後、舍、其、顯信、上洛、の事、とて、之、たり